

---

## 2018年、 ユニセフは以下の支援を 実施しました。

- 46カ国で500万人近くの10代の少女への児童婚の予防およびケアを実施
- 100万人以上の女の子に、能力開発、自己啓発、職業訓練を提供
- ユニセフが支援するプログラムを通じて、およそ1万8,000の学校が生理時の衛生管理を実施

ジェンダーの平等に関する活動の  
総支出：7億6,000万米ドル

---



右：ラオスのバ・キシアの農村で未舗装の道路を歩く子どもたち。

© UNICEF/UN0268858/Brown



## ジェンダーの平等

すべての子どもと若者の権利を実現するためには、ジェンダーの平等と女性と女の子のエンパワーメント（社会的地位の向上と能力強化）と権利の推進が不可欠です。ジェンダー平等への投資は、子どもと若者、そしてその地域にとって長期にわたって良い結果を生み出すことができます。

ユニセフの「ジェンダー行動計画」(Gender Action Plan : GAP) は、ユニセフが活動するすべての場所、すべての活動において、ジェンダーの平等を促進するための指針となります。これは、健康、教育、子どもの保護、青少年期の発達など優先分野を横断する取り組みであり、有害なジェンダー規範に対処し、幼児期および思春期に子どもたちが前向きなジェンダー観を身に付けていくことを促進していくものです。

### ジェンダー平等の主流化

ユニセフは引き続き、ジェンダーにおける成果を達成するために組織一丸となった努力を続けていきます。ジェンダーに関する専門知識の拡充、支援対象国のプログラムにおけるデータに基づいたジェンダー分析の改善、さらにユニセフの活動においてジェンダー平等の考え方をプログラムやシステムの隅々まで取り入れていくことなどです。ユニセフの各事務所では、合計27人のジェンダー専門家が働いており、ジェンダー平等がプログラム目標に組み込まれるよう努めています。現在、すべての地域事務所にジェンダーアドバイザーが在籍しています。

女性性器切除（FGM）と児童婚の根絶を目指すユニセフの活動において、パートナーシップはとても重要です。女の子と女性の権利を侵害するこの悪

習を終わらせるため、ユニセフは国連人口基金（UNFPA）と緊密に連携を図っており、2018年はUNFPAとの共同プログラムを通じて約10万人の女の子と女性がFGMの予防および保護を目的としたサービスを受けました。また、この慣習に関する教育、広報活動、および啓発活動に696万人が参加しました。

ユニセフは、UNFPA、UNウィメン（ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関）、国連開発計画と並び、女性と女の子に対する暴力を終わらせることに焦点を当てた「スポットライト・イニシアティブ」（Spotlight Initiative）の中心的なパートナーです。また、UNウィメンが議長を務める「女性とジェンダー平等に関する機関間ネットワーク」（Inter-Agency Network on Women and Gender Equality）のメンバーでもあります。

## @UNICEF パートナーシップ 2018：ジェンダーの平等

2018年、韓国政府は、「女の子のより良い生活のために」（Better Life for Girls）という取り組みの下、チャド、コートジボワール、ミャンマーにおいて3つの新プロジェクトへ資金提供を表明しました。

コートジボワールでは、困難な立場に置かれた女の子や疎外された女の子が適切な年齢で学校に通えるよう支援を提供しているほか、政府の能力を高めることで女の子に早期学習の機会を提供しており、質の高い初等教育と前期中等教育の提供にも取り組んでいます。チャドでは、学校で女の子と若い女性のエンパワーメントをサポートするようなインクルーシブ（誰もが受け入れられる）で健全な教育の拡大を目指しています。ミャンマーでは、女子教育と、ジェンダーに配慮した水と衛生サービスの提供を支援しています。

2018年、ユニセフは、女性と女の子に対する暴力をなくすための国連と欧州連合（EU）の共同の取り組みである「スポットライト・イニシアティブ」（Spotlight Initiative）の実施パートナーになりました。

民間部門のパートナーシップも重要な鍵を握っています。2018年ユニセフは、UNウィメンおよびユニリーバやカンヌ・ライオンズなどの企業によって進められている「脱ステレオタイプ同盟」（Unstereotype Alliance）の取り組みに参加しました。これは広告の力を使うことで、後ろ向きでステレオタイプなジェンダー観に挑戦していくことを目的にしています。

2018年、ルクセンブルク政府は3年連続でジェンダー平等の分野の特定分野向け予算に拠出した唯一の政府となりました。国レベルで質の高いジェンダープログラムを促進するユニセフの取り組みを力強くサポートし続けています。





ジブチのアリ・サビエのリレ・エクリル・コンテー・センターで、質問に答えるために手を挙げる女の子。国内のカトリック教育者によって運営されているこのセンターは、正式な学校教育を受けておらず、教育サービスへのアクセスにおいて困難に直面している弱い立場にある子どもたちに学習の機会を提供しているほか、青少年のエンパワーメントを目的とした職業訓練も実施しています。

© UNICEF/UN0199391/Noorani